

二〇二〇(令和二年)度 金沢学院短期大学 入学試験問題

一般入試Ⅰ期(二日目)

二〇二〇年一月三十一日(金)実施

国語

I 注意事項

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから14ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答用紙は、マークシート用紙と記述用解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答番号は10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は記述用解答用紙」と表示がありますので、記述用の解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

現在、学校等で行われている子ども達への支援が本当に有効なのかを考えていきたいと思えます。

何らかの原因で困っている子どもは大勢います。現在、私は複数の小・中学校に定期的に行って、学校コンサルテーションを行っています。ここでは学校で先生方に困っている子どものケース事例を出してもらい、みんなはどうするかを考えていくのです。手順は以下の通りです。

まず、事例① テイキョウ者である子どもの担任から、相談したいケースについて発表してもらいます。その後、参加者でグループを作り、ケースについて各グループから質問を出してもらい、参加者皆でその子どもへの理解を深めていきます。(a)最後に、ではどう支援していけばいいのかをグループで話し合い、各グループで支援案を出してもらうという形式です。

そこで出てくる支援案で定番なのが、「子どものいい所を見つけてあげて褒める」です。問題行動ばかり起こしている子は、どうしても悪い面ばかり目が向きがちなので、いい面を見つけてあげて褒めてあげる、小さなことでも褒める、または役割を与え、できたら褒める、といったものです。とにかく「褒める」の嵐です。私は聞いていて、いつも「またか」と思っています。

(b)褒めることを否定するではありません。(c)、こういった場合、一番浮かない顔をしているのは、事例をテイキョウした担任の先生です。「そんなこと言われなくても分かっているよ」と言いたげです。でも、皆からそうアドバイスされて、表情はどこかすっきりしません。そんなことはどこの誰でも、とつくの昔にやっているからです。何度も試しているのに効果が出ない。(d)先生も困っているのです。

やはり事例に挙がってくる子どもは勉強が苦手、運動も苦手、対人関係も苦手で、褒められるところはそうそう簡単には見つかりません。そこで、少しでもいい所を見つけてあげようと、通常なら社会で褒められるほどのことでもないようなことでも褒めてしまいます。

そんなことで、本当に問題は解決するのでしょうか。おそらく、最初は子どもも褒められたら嬉しいでしょうし、うまくいくかも知れません。しかし、長くは続きません。根本的な問題が解決しない限り、すぐに元に戻ってしまうことが多いのです。

少年院の非行少年の中にもいました。少年院で教官の先生から注意や指導を受けると、「僕は褒められて伸びるタイプなのに」と泣きながら言い訳をしたる少年が。きつと親からそう言われてきたのでしょうか、その結果が少年院です。

「褒める」と同じくよく出てくるのが、「話を聞いてあげる」です。これも子どもの気持ちを受け止め落ち着かせるには効果がありますが、根本的な解決策にはなりえないので、効果はいずれ薄くなってきます。

「褒める」「話を聞いてあげる」は、その場を②ツクロウのにはいいのですが、長い目でみた場合、根本的解決策ではないので逆に子どもの問題を先送りしているだけになってしまいます。

例えば、勉強ができないことで自信をなくしイライラしている子どもに対して、「走るの速いよ」と褒めたり、「勉強できなくてイライラしていたんだね」と話を聞いてあげたりしても、勉強ができない事実は変わらないのです。根本的な解決策は、X 以外では有り得ません。

小学校では、褒めることや話を聞いてあげること、何とか乗り切れたかもしれない、中学校でうまくいかない、高校でもうまくいかない、社会ではさらにうまくいかないとなったときに、「誰も褒めてくれない」「誰も話を聞いてくれない」といったところで、何の問題解決にもなりません。

学校コンサルテーションの流れの中には、子どもへの理解を深める段階があります。そこでも必ず出てくる定番の言葉があります。それは「この子は自尊心が低い」という言葉です。

困っている子どもを理解するためのケースを③トウギする会議でも、この言葉が出てこなかった会議は経験がありません。少年④カンベツ所でも、心理技官によって書かれた少年調査簿には、必ずと言っていいほど「当少年は自尊心が低い」と書かれています。

これに関しても、①私はいつも違和感を覚えます。第一に、色んな問題行動を起こしている子どもは、それまでに親や先生から叱られ続けていますので、自尊心が高いはずがないからです。「自尊心が低い」のは当たり前ですし、そう書いておけば外れることはまずないでしょう。

第二に、そもそも「自尊心が低い」ことは問題なのか、ということです。

我々大人はどうでしょう。自尊心は高いのでしょうか？ 仕事がうまくいかず、自信を失って自尊心が低いことはあるでしょう。逆に、仕事が⑤キドウにのり、社会的に成功すれば、自尊心が高くなることもあるでしょう。それでも、社会の荒波に揉まれながら思った通りの仕事ができない、職場の対人関係がうまくいかない、理想の家庭が築けないなど、自信がなかなか持てず、自尊心が低くなってしまっている大人の方が多いのではないのでしょうか。

だからと言って、ほとんどの人が社会で犯罪を行っている、不適応を起こしているわけでもありません。つまり、自尊心が低くても社会人として何とか生活できているのです。逆に、自尊心が高すぎると自己愛が強く、自己中のように見えてしまうかもしれません。大人でもなかなか高く保てない自尊心を、子どもにだけ「低いから問題だ」と言っている支援者は、矛盾しているのです。

⑥問題なのは自尊心が低いことではなく、自尊心が実情と乖離していることにあります。何もできないのにえらく自信をもっている。逆に何でもできるのに全然自信がもてない。要は、等身大の自分を分かっていることと問題が生じるのです。

「自尊心が低い」といった言葉に続くのは、「自尊心を上げるような支援が必要である」といった締め言葉です。こんな文章を見る度、「そもそも文

章を書いている心理技官の自尊感情は高いのか」と聞きたくなります。無理に上げる必要もなく、低いままでもいい、ありのままの現実の自分を受け入れていく強さが必要なのです。(A) もういい加減「自尊感情が……」といった表現からは卒業して欲しいところです。

(宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』(新潮新書刊)による。一部改変。)

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

1

 ～

5

。

- | | | | | |
|---------------------|--|-----------------|----------------|------------------|
| ① テイキョウ | <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>1</td></tr></table> | 1 | ② 川のテイボウ工事。 | ③ 宿題をテイシュツする。 |
| 1 | | | | |
| ④ テイセイインを押す。 | | ⑤ 法律にテイシヨクする。 | | |
| ② ツクロウ | <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>2</td></tr></table> | 2 | ② ゼンコウを積む。 | ③ 高齢者人口がゼンジ増加する。 |
| 2 | | | | |
| ① 二人の熱愛はコウゼンの秘密だ。 | | ⑤ 屋根をシュウゼンする。 | | |
| ④ 部屋ごとにハイゼンする。 | | | | |
| ③ トウギ | <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>3</td></tr></table> | 3 | ② 受験生のケントウを祈る。 | ③ トウメンの生活費を確保する。 |
| 3 | | | | |
| ① 敵をトウバツする。 | | | | |
| ④ 力のある若手がタイトウしつがある。 | | ⑤ 現政権ダトウを訴える集会。 | | |

④ カン|ベツ 4

① カン|ダンスが激しい。

② 宝石のカン|テイショ。

③ カン|ジんなことは言わない。

④ カン|サンとした街。

⑤ カン|ロクがある人。

⑤ キドウ 5

① ケツキ|盛んな若者。

② 権利をホウキ|する。

③ キバツな発想。

④ ジョウキ|を逸したふるまい。

⑤ 人生のキロ|に立つ。

問2 空欄 (a) () (d) に入れるのに最も適当な語句を、次の①～⑥の中から一つずつ選べ。

解答番号は a 6、 b 7、 c 8、 d 9。

① しかし

② なぜなら

③ そして

④ だから

⑤ とりわけ

⑥ もちろん

問3 傍線部(ア)「最初は子どもも褒められたら嬉しいでしょうし、うまくいくかも知れません。しかし、長くは続きません」とあるが、なぜ長くは続かないのか。その理由として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 10。

① 本当は褒められても伸びないのに、褒められて伸びるタイプと親に言われてきたから。

② 褒めることには、子どもの気持ちを受け止め落ち着かせる一時的な効果しかないから。

③ 通常なら社会で褒められるほどのことでもないようなことを、褒めているだけだから。

④ いくら褒めたところで問題が根本的に解決しなければ、状況は変わることがないから。

⑤ 褒めるより子どもの話を聞いてあげるほうが、気持ちを落ち着かせる効果が高いから。

問4 空欄 X に入れるのに最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 勉強とは関係ない点を褒めて子どものイライラを取り除くこと。
- ② 繰り返し褒めることによって、勉強に自信を取り戻させること。
- ③ 話をよく聞いて、勉強に自信を失った原因を明らかにすること。
- ④ 子どもに勉強ができない理由を話して、実情を理解させること。
- ⑤ 勉強への直接的な支援によって、勉強ができるようにすること。

問5 傍線部(イ)「私はいつも違和感を覚えます」とあるが、筆者はなぜ「違和感を覚え」たのか。その理由として適当なものにマークシート用紙の

①、適当でないものにマークシート用紙の②をマークせよ。

解答番号は① 12、② 13、③ 14、④ 15、⑤ 16、⑥ 17。

- ① 現実には自尊心の低い大人が多いが、そのほとんどは犯罪者にもなっていないし、不適応を起こしているわけではないから。
- ② 自尊心が低くても社会人としてやっていけるが、逆に高すぎると自己愛の強い「自己中」に見えてしまうこともあるから。
- ③ 大人はむしろ自尊心が低いほうが社会人としてやっていきやすいのに、子どもには高い自尊心を求めるのはおかしいから。
- ④ 問題のある子どもは常に親や教師から叱られ続けているために、自尊心が低くなってしまっているのはある意味、当然であるから。
- ⑤ 「自尊心が低い」という定番の言葉を言えば、困っている全ての子どものケースが説明でき、かつ、理解も深められるから。
- ⑥ そもそも、少年調査簿に「当少年は自尊心が低い」と書く心理技官自身の自尊心が、かなり低いと筆者は考えているから。

問6 傍線(ウ)「問題なのは自尊心が低いことではなく、自尊心が実情と乖離していることにあります」とあるが、自尊心が実情と乖離すると、どのようなことが起きるか。最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 現実の自分を受け入れられなくなる。
- ② 自己愛の強い「自己中」人間になる。
- ③ 思い通りの仕事をするのが困難になる。
- ④ 職場の対人関係がうまくいかなくなる。
- ⑤ 自尊心を高める支援を受けることになる。

問7 二重傍線部(A)「もういい加減「自尊心が……」といった表現からは卒業して欲しいところですが」とあるが、なぜ筆者はそう思っているのか。本文の内容に即して50字以内で書きなさい(ただし、句読点を含む)。解答は 記述用解答用紙。

第2問 次は、一九五〇年前後の日本を舞台にした小説の一部である。これを読んで、次の問い(問1〜6)に答えよ。

「日本の敗戦後、軍人だった「おやじ」の収入が途絶えた「僕」の一家は、生活を成り立たせるため、下宿屋をすることを思いついた。」

これこそ「士族の商法」というものなんだろうと僕は思っていた。

下宿人を置いたらよけい生活が苦しくなった。そんな馬鹿な話はないのだ。考えてみると、それは一つにはおふくろがやりくりが下手なのと、ひとつにはへんな料理自慢から、家の者の食事の質をおとしてまで下宿人たちに贅沢ぜいたくをさせている。それで月末になると、身内はおろか下宿人をやしなうのにうきゅうとするありさまなのだ。

では、せめてもう少し部屋代を上げさせてもらったらどうか。それを僕がいうと、おふくろはぞつとしたような顔をする。値上げを申し出たりしたら連中が憤然としていっせいで出て行ってしまおう、と思ひこんでいるのである。何のために下宿をはじめたのかわからない。

空いている部屋があるのだから貸せばいい、とかんたんに僕もおふくろも考えていた。僕は勉強机を持って応接間から物置がわりの三畳の部屋にうつる。おやじとおふくろはさしあたって必要な家財道具だけを子供部屋にはこびこんでたてこもる。それでまず、三部屋は貸せる。下宿人は原則として、賄つきで、だから部屋代だけはまるまる浮く、とこう考えた。

ところが、やってみるとそんなあまいものではなかったのだ。経済の面以外にも、おもしろくないことがいろいろと出てきたのだ。

下宿人たちが入った一番あとから風呂に入りに行く。すると、湯殿の足拭きはもう彼らのからだのしずくでびしょ濡れぬだった。便所へ行けば、草履には誰のかわからない他人の足のぬくもりがあった。玄関にはいつも、僕やおやじの底に穴のあいたボロ靴と並んで、下宿人さまたちの立派な靴が光っていた。おふくろが毎朝ボーチにしゃがんで、一心不乱に磨きたてるから。

自分の家なのに自分の家でなくなっている。しかし、だからといって彼等を憎むというのは身勝手な話なのだ。もともとこの家も敷地ぜんたいもとつくと抵当に入っていた。おやじがむこう見ずにやってしまった借金もかさんでいた。大した屋敷でもないのに、僕はすいぶん感傷的になっていた。いずれ、僕がおやじやおふくろとこの家を出て行くことがあるだろうか？ あのと、桜の園の若いむすめみたいに、さようなら、お家！ さようなら、旧い生活！
といいながら。

わけても、おやじはあわれだった。おやじはさいしょ、無能をきめこんだ下宿屋の亭主らしく、つとめて下宿人たちに愛想よくふるまおうとして、あつけ

なく失敗していた。食堂に出てきてなんとなく彼等に話しかけたりしているうちに、やつぱり(ト)出る幕じゃないと分ったのだ。親父の前歴をきくと、若い連中はたいがい、軍人か！ という(シ)興ざめな顔をした。「軍人さん」というのはいいほうで、(ウ)わざわざ「閣下！」なんて呼ぶのもいたからな。

彼等にしてみれば、めしの世話をしてくれる下宿のおかみさんにだけ用があるので、その亭主なんていうのはいかにもみつともない存在だったにちがいない。だから、おやじはなるたけ目障りにならないようにしていた。洗面所に立つ時だって、彼等と廊下で出くわさないように、それとなくタイミングを気をつけているみたいだった。

僕がいるのは昔の(注2)女中部屋である。ここで寝起きしていたセツや、とか、キクや、とかいった不幸なむすめたちの顔もまだおぼろげながらおぼえていけるような気がする。この家の中ではいちばん暗い北のすみにあつて、朝のうちほんのわずかに陽があたりらしい。というのは僕は、たいてい午後おそくまで寝ているから。押入れをあけると、便所のおいがする。便所と背中合わせになっているのだ。(中略)

ついでに、僕は炎天の下を歩いていて金をひろった。そんなことはあとにもさきにもなかった。百円から一円までのバラ銭が、人通りのすくない住宅街の道路に二、三十メートルほどにわたつて、点々と、撒き餌(ネ)のように落ちていたのだ。僕は(シ)眼をこすりたような気持で、一枚また一枚と拾つてあるいた。わざとでないとしたら、ずいぶん念の入つた落し方だなあ、と僕は思った。あれこれ想像して、もしかしたら、これは子供がおとしたんじゃないかという気がした。母親に使いにやらされた男の児が猛烈に自転車をこいでとばしながら、勘定の分だけきつちり渡されたのを穴のあいた半ズボンのポケットからでもばらまいて行つたのかもしれない。そして、一円とか五円とかいうのはその子の(注3)駄賃だったのかもしれないのだ。

ああ、それなら、その金をもつと有益なことに使えばよかった。僕はふらふらと町のソバ屋に入つて、天井をたべてしまつたのである。

満腹感と同時に、(注5)コジキをした！ という啞然(おぼろ)とした気分におそわれて、僕はわらい出しそうになつた。何年かまえ、まだおやじもおふるも部屋を貸すことには思いつかずに、売り食いのドン底生活をしていた時分、僕の飼つていた猫が近所の台所からくわえてきた見事なシャケの切り身を、あくる日弁当のおかずに入れて学校に持つて行つたことなど思い出された。あの頃とちつとも變つていやしない。

猫のシャケを人間がうばつてたべる！ そのこともおかしいことには違ひなかつたが、そんなにしてまでも人間が生きるということのほうがもつとおかしいではないか。

じつをいうと、僕はその天井に味をしめたのだ。以後、ちよつと気をつけて道を歩くようになった。ふくらんだ革の財布をひろう！ そんなことを考えている自分にふと気がつく。すると、(注6)僕は顔が赤くなるような気がした。現実にキョロキョロと地面に眼をやりながら歩いていたのである。それがもう癖みたいなものになつてしまつていいのかしら。

——金がなければ、人間、生きてゆくことができせんからね。……
てれかくしに、僕は歩きながらわざわざ口に出して唱えてみたりした。そうでもして眠りこけている自分を抓つかってやらないことには、この僕というやつはいつこうにやる気をおこさないのだ。

(阿部昭『未成年』による。一部改変。)

(注) 1 桜の園の若いむすめ——ロシアの作家 A・チェーホフの戯曲『桜の園』に登場する娘のこと。古い家を出、新しい世界に飛び込んでいく。

2 女中部屋——住み込みで家事の手伝いなどをした女性の居室。

3 駄賃——子供が手伝いなどをした時に与える金や菓子。お駄賃。

問1 二重傍線部 (a) (b) (c) (d) の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は a 、b 、c 、d 。

(a) きゆうきゆうとする

① 悲鳴を上げる

② お手上げになる

③ 一所懸命になる

④ 忙しく動き回る

⑤ 余裕がなくなる

(b) 出る幕じゃない

① 受け入れられることはない

② うまく物事が運べない

③ しゃしゃり出ることはない

④ 無視してはいけない

⑤ 愛嬌が相手に通じない

(c) 興ざめた顔

① 酷薄な顔

② 白けた顔

③ 気後れした顔

④ 何かを含んだ顔

⑤ 驚き呆あきれた顔

(d) 眼をこすりたいたいような気持ち

- ① 獲物を凝視するような気持ち
- ② 焦点をぼかそうとする気持ち
- ③ 嬉し涙をおさえるような気持ち
- ④ 目まいがするような気持ち
- ⑤ わが目を疑うような気持ち

問2 傍線部(ア)「おもしろくないことがいろいろと出てきたのだ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 23。

- ① 足拭きを濡らすなどの生理的に不快な振舞いを、無遠慮な下宿人がすることがわかったということ。
- ② 一定の空間を貸すに留まらず、予想以上に下宿人たちが醸し出す存在感が一家の生活を脅かしたということ。
- ③ 下宿人たちの経済的な豊かさを目にする中で、それに憧れる心理が僕やおふくろに生じたということ。
- ④ 僕が三畳の物置がわりの部屋に押し込められ、豊かだった昔の記憶に悩まされるはめになったということ。
- ⑤ 僕が自分の家を憎み、父母を連れていつかそこから逃げ出すことを夢に見るようになったということ。

問3 傍線部(イ)「彼等を憎むというのは身勝手な話なのだ」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 24。

- ① 下宿人を置くことについて見通しが甘かったのは自分たちの責任であって、とりわけ彼等に問題があるわけではないから。
- ② 下宿人を置く前に、すでに生活は行き詰まり、家も土地も完全に自分たちのものとは言い切れない状態になっていたから。
- ③ 下宿代によってようやく生活にゆとりができた自分たちのふがいなさを棚に上げ、責任を下宿人に転嫁しているから。
- ④ おふくろのやりくり下手と変な料理自慢、そしておやじの向こう見ずな借金こそが、現在の窮状の原因であるから。
- ⑤ 本来家主として持つていてしかるべき、下宿人に対する愛情や配慮が不足していることを、考えないようにしているから。

問4 傍線部(ウ)「わざわざ「閣下!」なんて呼ぶ」とあるが、ここから読み取れる「おやじ」に対する下宿人たちの心情や態度として最も適当なものを、

次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 25。

- ① 崇敬 ② 忌避
③ 揶揄 やゆ ④ 憐憫 れんびん
⑤ 慈愛

問5 傍線部(エ)「コジキをした!」という啞然とした気分におそわれて、僕はわらい出しそうになった」とあるが、その説明として最も適当なものを、

次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 26。

- ① 思いもかけないことを自分がしてしまったことに気づき、抱いていた満足感が一挙に惨めなものに変化したため、その落差に驚き笑いたなくなった。
② 使いに出た子どもの駄賃かもしれない貴重な小銭を、簡単に食欲を満たすことに使った自分の卑しさにうろたえ、それを笑いに紛らわそうとした。
③ 拾った小銭を遣った自分の姿が、シヤケの切り身を猫から奪い弁当のおかずにした以前の自分と重なり、変わらない呑気さのんに自分でも笑ってしまった。
④ 点々と散った小銭から勝手な空想を繰り広げたうえ、それを見事に忘れてしまえる自分の迂闊うかつさを思い知り、そのような自分に憫笑を誘われた。
⑤ 拾った金で何のためらいもなく腹を満たしてしまえるほど、自分が人並みに生きること执着てつごうしていることを思い知らされ、おかしくなった。

問6 傍線部(オ)「僕は顔が赤くなるような気がした」とあるが、なぜ僕はそのように感じたのか。40字以上50字以内で説明しなさい(ただし、句読点を

含む)。解答は 記述用解答用紙。

第3問 次のA～Eのことわざについて、空欄□に当てはまる語を【語群】①～⑥の中から、意味を【意味】①～⑥の中から選べ。

解答番号は 27 ～ 36。

A	「 <input type="text" value="27"/> が吹けば桶屋 <small>おけ</small> が儲 <small>もう</small> かる」	意味	<input type="text" value="28"/>
B	「かわいい子には <input type="text" value="29"/> をさせよ」	意味	<input type="text" value="30"/>
C	「 <input type="text" value="31"/> に耳あり障子に目あり」	意味	<input type="text" value="32"/>
D	「立つ鳥 <input type="text" value="33"/> を濁 <small>な</small> さず」	意味	<input type="text" value="34"/>
E	「 <input type="text" value="35"/> は熱 <small>あつ</small> いうちに打て」	意味	<input type="text" value="36"/>

【語群】

- ① 嵐 ② 壁 ③ 空 ④ 風 ⑤ 旅 ⑥ 土 ⑦ 鉄 ⑧ 跡 ⑨ 家 ⑩ 火

【意味】

- ① 失敗にこりてしまつて、用心し過ぎること。
② 考え方の柔軟なうちに鍛えておいたほうがよい、ということ。
③ 後始末は見苦しくないようきちんとするべきだ、ということ。
④ 甘やかすより辛くて苦しい体験をするほうがためになる、ということ。
⑤ 隠し事は漏れやすいものだから注意したほうがよい、ということ。
⑥ 出来事が巡り巡つて思わぬ結果を生じること。

第4問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

われわれは、あることに自分をゆだね、専心することによって、そこから意味を感じとることができる。専心する前に、自らをゆだねる前に、その意味を確認しようとするれば、結局は生き甲斐を失い、無意味感におちいり、シラケてくる。

われわれがどこまで打ち込めるかに応じて、われわれにとって意味が出てくるのである。意味に応じて打ち込むのではなく、打ち込むことに応じて意味が出てくる。

それだからこそ、禅などで「ただひたすらにつとめよ」ということをいうのだろう。(注1) フランクは、自己充足は結果として達せられる、といっている。意図して達せられるのではなく、結果として達せられるというのである。そのへんになると、禅の無という考えも、フランクの実存分析も、(注2) ウェインバーグの心理学もきわめて似てくる。いや、これだけ洋の東西をこえて似てくることは、それだけ真実だからだとも考えられる。世界からわれわれの生活は投げ込まれてくる要請に献身する程度に応じて、自己充足するとフランクはいう。

A
とらわれていない心には、自分が今、何を求められているかわかるのである。

しかし、ここで人間の疎外構造というか、(注3) 逆説的構造というか、大変難しい問題が出てくるのである。

B
成し遂げるべき課題を持ち、それに打ち込み、それを成し遂げた人の心であり、あるいはまた打ち込んでいる人の心である。

自分が成し遂げるべき課題は何か、ということを知ることのできる能力は、自らの課題ととり組んできた人達にのみそなわっているということである。

自己充足は自己目的ではない、人が自分の人生の本当の意味を見失った時、はじめて自己充足が結果としてではなく、目的として念頭にうかぶ、というフランクの言葉はおそらく正しいだろう。

では、どうすればよいのか。

自己充足していない人には、なかなか成し遂げるべき課題は見つからない。課題を見つけれられる人は自己充足している。

C

この人間の逆説的構造（実は僕はこの構造を疎外構造と呼びたいのだが）をどこかで打ち破らねばならないのである。

D

元岩波書店会長の小林勇氏は絵筆をよくとると新聞に出ていた。そして絵を描きはじめてのが、仕事ざかりの三十八歳の時であったという。忙しいからできない、ということとはこれを考えてもおかしい。

長男の夏休みの宿題につきあつてクレヨンを握って見た時、「こりや面白い」と思ったという。そしてそれ以後、熱中する。朝は出勤前に少しでも描き、夜は気がついてみると十二時過ぎということがしょっちゅうだったそうである。しかしこの人が長男と一緒にクレヨンを握ることを「忙しいからできない」といえば、それまでだったのである。

E

（加藤諦三『行動してみることで人生は開ける』による。一部改変。）

（注） 1 フランクル——ヴィクトール・エミール・フランクル。オーストリアの精神科医、心理学者。

2 ウェインバーク——ジョージ・ウェインバーク。アメリカの臨床心理学者。

3 逆説的構造——当初の意図と違う半面が同時に出てくる構造、あるいは肯定的な面が同時に否定的な半面にもなる（その逆もある）構造。

問 空欄 A、E の中には、次の①～⑤のいずれかの文が入る。最も適当なものを一つずつ選べ。

解答番号は A 37、B 38、C 39、D 40、E 41。

- ① このような「きっかけ」をつくれるのも、その人の運ではなく、その人の態度である。
- ② その要請をききいれる心は無心なのであろう。
- ③ つまり必要な人にはその能力がない、ということなのである。
- ④ だからこそ、「きっかけ」が大切になってくる。
- ⑤ つまり、とらわれない心というのは、何もしていない無為の人間の心ではない。